

## 「サクランボの個性」

今日は給食にサクランボが出ました。3年生の子どもたちと給食を食べていたら、子どもたちが、サクランボのへた（果柄）を持って、こんな会話をしています。

「サクランボってきれいだねー。食べるのもったいないねー。」

「真っ赤で、ルビーみたいだね。つやつやだね。」

「茎（果柄のことでしょう）がついてるとこ（着いているところ）がへこんでる。」

「3個全部、大きさも顔もちがうよ。これなんか〇〇〇（友達のなまえ）に似てる！」

私は給食を食べながら、面白がって聞いていました。実は子どもたちは、食事をしながら、「サクランボの観察会」をしていたのです。最後の子の「発言」は特に面白いです。果実の一つひとつにも個性があって、それを友達と対比しているところが興味深いです。

私はその会話を聞いたあと、自分の給食トレイのサクランボをもう一度見てみました。食用のサクランボは、ソメイヨシノやオオシマザクラとは種類がちがいます。ミザクラ（実桜）という種類で、多くの品種があります。栽培種であっても、自然の植物ですから、サクランボは一粒ひと粒個性があります。よく見れば、色も形も大きさもちがいます。私も何だかすぐに食べるが惜しくなって、絵に描いてから食べることにしました。描いてみたら、子どもと同じぐらい、個性豊かなことがわかりました。



給食のサクランボ / 2014, 6,25 (田中 50歳の誕生日記念!)